

2025 年 7 月 10 日
東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

東京芸術劇場・ルーマニア・ラドゥ・スタンカ国立劇場 国際共同製作

佐々木蔵之介ひとり芝居

ヨナ



[原作] マリン・ソレスク [演出] シルヴィウ・プルカレーテ [出演] 佐々木蔵之介

2025年10月1日(水)～10月13日(月・祝) 東京芸術劇場 シアターウエスト

[企画制作] 東京芸術劇場 ルーマニア・ラドゥ・スタンカ国立劇場

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ～Jonah～』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp
制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田) ・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

東京芸術劇場とルーマニア・ラドゥ・スタンカ国立劇場の固い絆が生んだ国際共同制作。鬼才演出家プルカレーテと、充実の活躍をみせる佐々木蔵之介、三度目のタッグによるひとり芝居。今春ヨーロッパ初演で圧倒的評価を得た話題作、秋に日本上陸。

東京芸術劇場は、野田芸術監督の元、海外の劇場やフェスティバルとの交流を深めてきました。中でも緊密な関係を築いたのがルーマニア・ラドゥ・スタンカ国立劇場で、それぞれが主催する国際芸術祭に相互に作品を招へいしあい、ラドゥ・スタンカ国立劇場が毎年6月に開催するシビウ国際演劇祭で数々のヒット作を放つ現代ルーマニア演劇界の巨匠演出家プルカレーテを日本に招いて新作を創作するなどの活動を重ねてきました。プルカレーテが日本で手掛けた3作品のうち、佐々木蔵之介は、2017『リチャード三世』、2022『守銭奴』(いずれも東京芸術劇場制作)の2本に主演し、人間の暗部に深く迫りつつもユーモアにあふれる優れた舞台成果を残しました。

東京芸術劇場とラドゥ・スタンカ国立劇場は、佐々木とプルカレーテの信頼関係をさらに発展させ、次なるステップとして、国際ツアーに出せる作品の共同制作に取り組むことで合意しました。日本またはルーマニアの戯曲を検討し始めたところ、プルカレーテより、本作『ヨナ-Jonah』の提案がありました。この作品はルーマニアの国民的詩人マリン・ソレスク(1936-1996)の代表作で、旧約聖書の聖人ヨナの逸話を題材とする一人芝居です。この企画がたちあがるや、ヨーロッパでは、ルーマニア、ハンガリー、ブルガリア、モルドバ各国の首都の国立劇場へのツアー、日本でも金沢・松本・水戸・山口・大阪での公演が、初演を前にしてブッキングが成立。このプロジェクトへの期待の高さを実感させられました。

「用意はいいか。どうにかして、光へと向かう道を探すんだ!」

ルーマニアの国民的詩人が描いた不屈の男の物語が、苦難の時代を生きる我々に与えるメッセージとは？ 佐々木蔵之介の魂の演技に、ヨーロッパの観客は総立ちのカーテンコール。シビウ国際演劇祭で栄えあるウォーク・オブ・フェイムを受賞。

「闇にふれた者だけが、光を探ることができる」

ヨナは漁師で預言者。神に背いて、鯨に飲み込まれ3日の後にその腹から生還した人物です。哲学的かつ詩的なこの作品の独特の味わいに、血肉を通わせたのが、ドリアン助川による翻訳と修辞です。一読するや「ヨナは私です」と喝破した、その圧倒的な日本語のパワーを得て、佐々木は4月末シビウに単身乗り込んで4週間の稽古に臨みました。ルーマニア側スタッフとの創作は、言葉の壁はあっても心の深いところをつながりあう体験となりました。名匠プルカレーテは、敬愛する反骨の詩人による聖書のキャラクターの逸話を、絶望的な状況に置かれた小さな個人が最後まで生き抜く道を探して闘うドラマとして再生。現代世界で起こっている様々な困難の下で抑圧される個人へのエールともいえる本作を、佐々木は入魂の演技で伝えました。5月21日のシビウでの世界初演は、ルーマニアの観客を自国の戯曲の新たな魅力に目覚めさせ、感動に目を潤ませる姿も見受けられました。続く各国ツアーとも、チケットは完売。ルーマニアの抒情とパッション、日本の静謐な精神性が融合した本作は熱いスタンディングオベーションで迎えられ、佐々木には各地のテレビやウェブのインタビューが殺到しました。ハイライトともいえるシビウ国際演劇祭はチケット売り出し開始10分後にソールドアウトとなり、追加公演がうたれました。5月の世界初演とヨーロッパツアーの絶賛を耳にした観客、世界から訪れている演劇関係者の熱い熱気に迎えられ、佐々木はさらに深みを増した演技で観客を虜にした。佐々木はこの舞台とこれまでのプルカレーテ氏らとの舞台成果により、シビウ国際演劇祭が毎年世界を代表するアーティストを表彰している「ウォーク・オブ・フェイム」を キャサリン・ターナーやビル・マーレイといった著名俳優と並んで受賞、その名前の刻まれた星がシビウの歩道に残されました。

ヨーロッパツアーを絶賛のうちに終えた 佐々木蔵之介ひとり芝居『ヨナ-Jonah』が、この秋日本に上陸します。舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」芸劇オータムセレクションとして10月1日（水）～13日（月・祝）まで東京芸術劇場 シアターウエストで上演の後、日本ツアーを行います。孤独の暗闇を打ち破り、光を求める魂の旅路を 佐々木蔵之介とともにお客様にも歩いて頂くことを願っています。本公演、是非ご取材ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ～Jonah～』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田) ・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

〈CAST PROFILE〉

佐々木蔵之介	Kuranosuke Sasaki
	京都府出身。 大学在籍中、劇団「惑星ピスタチオ」の旗揚げに参加。退団後、テレビ・映画・舞台など数多くの作品に出演。 近年の主な出演作に、ドラマ『マイホームヒーロー』『グレートギフト』、大河ドラマ『光る君へ』、映画『シャイロックの子供たち』『ゴジラ-1.0』『映画 マイホームヒーロー』、舞台『君子無朋』『破門フェデリコ〜くたばれ十字軍〜』など。 受賞歴に、第 17 回 読売演劇賞 優秀男優賞、第 38 回日本アカデミー賞 優秀主演男優賞、第 43 回日本アカデミー助演男優賞など。 佐々木蔵之介ファンサイト 「TRANSIT」

<シビウ・ウォーク・オブ・フェイムとは>

長年にわたり、シビウは国際演劇祭に世界の名だたる文化人や芸術家を招き入れ、そのもたらした多大な恩恵に浴してきました。一人一人の傑出した功績とそこに至る物語が、この市の運命に与えた数知れぬ影響は、人々の心に深く刻まれています。シビウ・ウォーク・オブ・フェイムはシビウの文化芸術に傑出した貢献を果たした方、市の発展に寄与した方を顕彰する文化イベントで、その栄誉は永遠に刻まれ、祝福されます。今年の実賞者は、佐々木蔵之介、ビル・マーレイ、キャサリン・ターナー、アラン・プラテールら 7 名。これまでの受賞者には、クラウド・パイマン、サシャ・ヴァルツ、クリストフ・ワリコフスキー、ジョエル・ポムラ、アリアヌ・ムヌイシュキン、クリストフ・マルターラー、ピーター・ブルック、クリスチャン・ルパ、イザベル・ユペール、ミハイル・バリシニコフ、イスラエル・ガルバン、アクラム・カーン、シャーロット・ランプリング、シディ・ラルビ・シェルカウイ、ミロ・ラウ、ケイティ・ミッチェル、ティアゴ・ロドリゲス、シルヴィウ・プルカレーテ、ペーター・スタイン、ロバート・ウィルソン、トーマス・オスターマイヤー、アンヌテレサ・ドゥ・ケースマイケル、ヨン・フォッセ、ジョン・マルコビッチらがいます。日本人としては、串田和美、中村勘三郎、野田秀樹、ヨシ笈田らが名を連ね、市民の遊歩道に星が埋め込まれています。

[FITS](#)

<ヨナとは？>

【作品の背景 旧約聖書に描かれる「ヨナ」の物語】

ヨナ(Jonah, ルーマニア語ではIona)は旧約聖書のヨナ書に描かれる聖人。預言者。漁師。敵国アッシリアのニネヴェに行き、「40日後に滅びる」という預言を伝えよという神の命令に背き、逆方向に船で逃げる。神の怒りにより船は難破に瀕し、ヨナは自分を海に投げ入れれば神の怒りは収まると告げる。海に放り込まれたヨナは神の用意したクジラに飲まれ、3日3晩その腹の中にいたが、神の命により、外に吐き出される。ヨナは改心して、ニネヴェに出向き、人々に預言を告げると、彼らは悔い改めたため、神は赦してアッシリアを滅ぼすのをやめた。敵国を救う神にヨナは激怒し、ニネヴェに庵を建ててかれらを見張る。そこに生えたひょうたんが日陰を作ることヨナは喜ぶが、神はそれを枯らす。怒るヨナに、神は、ひょうたん一本をそれほど惜しむのなら、神が無数の人のいるニネヴェを惜しまないわけがない、と諭す

【マリン・ソレスクの「ヨナ」 あらすじ】

ヨナは今日もつり糸をたれている。一人で。魚を見つめながら。問わず語りを繰り返しながら。ふと気づくと、巨大な暗闇に飲まれるヨナ。彼は自分が巨大な魚の腹の中にいることに気づく。暗黒の中、なんとか外に出るべくもがくヨナ。恐怖、絶望、あきらめ、過去の思い出や後悔…さまざまな思いが彼を去来する。狂気に陥りそうな混乱の末に、ついに彼は壁をぶち破る。しかし、そこに彼が発見したものは…？ 彼は外に出られるのか、それとも…？

…1969 年、マリン・ソレスクの「ヨナ」はブルレストの満席の劇場で初演されたが、その内容が物議をかもすとしてすぐに上演が中止された。しかし、その後は、教科書に掲載されるほど国民的に知られる作品となる。

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ～Jonah～』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田)・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

<シビウ国際演劇祭 プレスリリースより>

マリン・ソレスクの文学は、ルーマニア人の魂の最も特別な次元を統合した、真の言語的・文化的遺産だ。その特徴である、人間の不運を描く諧謔味と、人の本性の鋭い考察が、最もパワフルなメタファーに結実した傑作が「ヨナ」だ。ルーマニアの精神性、自然や宇宙との調和、民族の歴史を色濃く映す戯曲に、名匠プルカレーテが取り入れた日本文化の美と洗練が加わったこの舞台は、その両方への愛の宣言であり、真の奇跡だ。この舞台は世界中の観客に、神の存在と自然の原初的エネルギーを感じさせる。全く見た目が異なるのに、精神の深いところで似ている二つの異文化の交感という特別な演劇的体験に、私たちは観客を招き入れる。観客は心を開き、自然の純粋な美しさに触れた時の平和と安らぎを得るだろう。

<ヨーロッパ公演 観客の声より>

「身体と内に纏うエネルギーを完全に支配しておられ、凄まじくとめどない時空が蔵之介さんの中に広がっていました。静寂でこれほど繊細な芝居をかつて観たことはありません。芸術は(世界を)もっと平和な方向へと変えることはできないけれど、考えることはできると、蔵之介さんの Jonah は気づかせてくださいました。希望の光を与えてくださいました。光は闇を知らないと感じることはできません。海の底の魚たちの住まう闇に触れた者だけが光を探ることができる、そう教えて頂きました。幸せです。ありがとう。」

<「ヨナ」今春のヨーロッパツアー行程>

<ルーマニア／シビウ プレミア>

期間：2025年5月21日（水）19:00、22日（木）19:00 会場：ラドウ・スタンカ国立劇場

<http://www.tnrs.ro/>

<ハンガリー／ブダペスト マダッチ国際演劇会議>

期間：2025年5月24日（土）19:00 会場：ハンガリー国立劇場 ゴビ・ヒルダステージ

<https://nemzetiszinhas.hu/en>

<https://mitem.hu/en/programme/performances/jonah>

<ルーマニア／クルージュ・ナポカ>

期間：2025年5月27日（火）19:00 会場：ルチアン・ブラガ国立劇場

<https://www.teatrulnationalcluj.ro/en/>

<https://www.teatrulnationalcluj.ro/eveniment-814/iona/>

<ルーマニア／ブカレスト>

期間：2025年5月30日（金）19:00、31日（土）19:00 会場：オデオン劇場

<https://teatrul-odeon.ro/>

<モルドバ／キシナウ>

期間：2025年6月3日（火）19:00 会場：サティリクス・イオン・ルカ・カラジャーレ国立劇場

<https://satiricus.md/home>

<https://satiricus.md/events/209568>

<ブルガリア／ソフィア>

期間：2025年6月7日（土）16:00 & 21:00 会場：イヴァン・ヴァゾフ国立劇場

<https://nationaltheatre.bg/public/en>

<ルーマニア／シビウ国際演劇祭>

期間：2025年6月26日（木）15:00 & 20:00 会場：ラドウ・スタンカ国立劇場

<http://www.sibfest.ro/>

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ～Jonah～』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田) ・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

<ルーマニア・ラドゥ・スタンカ国立劇場、シビウ国際演劇祭とは>



ラドゥ・スタンカ劇場は、1788 年に建設された伝統ある劇場。2000 年にコンスタンティン・キリアックが芸術監督就任以降その活動が評価され、2004 年に国立劇場となった。約 50 人の俳優が所属し、古典から実験的作品までシーズン中に約 70 作品、年間に新作 10 数本を上演する。また、94 年以降、毎年開催されるシビウ国際演劇祭の共同主催者でもある。

シビウ国際演劇祭は、毎年 6 月に 10 日間にわたって開催され、今年で 32 周年を迎える。世界約 70 か国の芸術家が参加し、エディンバラ、アヴィニョンに並ぶ規模を誇る。ディレクターのコンスタンティン・キリアック氏の手腕により、

2007 年にはこのフェスティバルによりシビウ市が欧州文化首都となり、発展を遂げた。当時シビウ市長だったクラウス・ヨハニス氏が後にルーマニアの大統領になるなど、社会に影響の大きい活動を展開している。フェスティバルは、演劇、ダンス、ミュージカル、オペラ、映画、音楽、美術、書籍まで多分野をカバーするが、全ての演目がフェスティバルによってキュレーションされているため、バラエティに富み、質の高い演目がラインナップされている。特にシルク、フィジカルシアター、野外パフォーマンスなどが充実し、同時期にプレゼンターたちを対象とするシビウ・パフォーミング・アート・マーケット(SIPAM)、レクチャープログラム、ワークショップなども開催される。また、フェスティバルの現場運営、招へいカンパニーのロジスティック手配やアテンドなどは、学生を中心とする国内外から集められたボランティアを稼働している。このプログラムで高山市と長らく協働関係を結び、毎年数多くの日本人ボランティアが参加している。演劇祭の初期より日本からも数多くの劇団やアーティストが同演劇祭には参加している。2008 年に故・十八代目中村勘三郎が平成中村座を率いて歌舞伎を上演したのち、まつもと市民芸術館前芸術監督の串田和美が作品を発表、東京芸術劇場芸術監督・野田秀樹が『THE BEE』『One Green Bottle』を上演するなど、その演劇祭の始まりから日本との深いつながりを築いてきた。キリアック氏は日本との文化交流への貢献から 2015 年には国際交流基金賞を、またその活動が評価されて 2024 年には国際プロデューサーネットワークである ISPA(International Society of Performing Arts)のエンジェル賞を受賞した。フェスティバルは毎年テーマを掲げて開催されるが、今年は「Thank you」というキーワードの元 82 ケ国、842 のイベントが、82 ケ所の会場で開催され、5000 人を超える参加者と一日 100,000 人を超える観客が集まった。



コンスタンティン・キリアック プロフィール



ブカレスト(ルーマニア)で演技を学び、アメリカと英国で文化マネジメントの学位を得る。現在、シビウ国際演劇祭とシビウ舞台芸術マーケットのディレクター、ラドゥ・スタンカ国立劇場のゼネラル・マネージャーを務め、シビウの大学で教授として後進を指導。シビウが 2007 年にヨーロッパ文化首都に選ばれる際に重要な役割を果たして大成功に導き、シビウ演劇祭をメジャーなフェスティバルに押し上げた。シルヴィウ・プルカレーテラルーマニアを代表する演出家たちが毎年優れた作品を発表しているほか、世界中から優れた舞台やサーカスを招いている。日本からは中村勘三郎の平成中村座、野田秀樹、串田和美の作品などを紹介。監督職の傍ら、俳優としても現役。ルーマニア王室勲章とシビウ名誉市民、フランスのレジオンドヌール勲章と芸術文化勲章、ルクセンブルグ、ベルギーからの叙勲の他、日本の旭日小綬章、2015 年には国際交流基金賞を受ける。

[プレゼンター・インタビュー：コンスタンティン・キリアック（シビウ国際演劇祭）](https://www.jpfa.jp/jpf.go.jp) | [Performing Arts Network Japan \(jpf.go.jp\)](https://www.jpfa.jp/jpf.go.jp) [国際交流基金 - 平成 27 \(2015\) 年 受賞者 \(jpf.go.jp\)](https://www.jpfa.jp/jpf.go.jp)

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ～Jonah～』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田)・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

〈プルカレーテチームの東京芸術劇場での創作〉



リチャード三世 (2017) シェイクスピア作

出演 佐々木蔵之介、手塚とおる、今井朋彦、植本純米、長谷川朝晴、山中崇、八十田勇一、阿南健治、有園芳記、

壤晴彦、渡辺美佐子 ほか

歌舞伎に着想を得て、ほぼオールメールキャストが全登場人物を演じた。



野田版真夏の夜の夢 (2020) 野田秀樹 脚本

出演 鈴木杏 北乃きい 加治将樹、矢崎広、手塚とおる、今井朋彦、加藤涼、長谷川朝晴、山中崇、八十田勇一、阿南健治、朝倉伸二、壤晴彦 ほか

コロナ渦、舞台稽古まで日ルチームが対面できぬまま、上演を敢行。鈴木杏、読売演劇大賞・最優秀主演女優賞受賞



守銭奴 (2022) モリエール作

出演 佐々木蔵之介 加治将樹、大西礼芳、天野はな、手塚とおる、長谷川朝晴、阿南健治、壤晴彦 ほか

モリエール生誕 400 年記念。

シビウ演劇祭から招いた「スカーレット・プリンセス」

との連続上演を敢行。話題を集めた。

〈シビウ国際演劇祭プルカレーテ作品 東京芸術劇場来日公演〉



『ルル』(2013)



『スカーレット・プリンセス』 (2022)

『オイディプス』(2015)

『ガリヴァー旅行記』(2015)

連続上演



〈東京芸術劇場作品 シビウ国際演劇祭公演〉



「THE BEE ENGLISH VERSION」 (2013)

「One Green Bottle」 (2018)

(いずれも、作・演出・出演 野田秀樹)



<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ〜Jonah〜』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田) ・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

〈CREATORS PROFILE〉

原作：マリン・ソレスク／Marin Sorescu

ルーマニアの詩人、劇作家、小説家。画家としても知られる。1989年の革命の後、1993年から95年までニコラエ・ヴァカロイウ内閣で、いかなる政党にも属さないまま文化大臣を務めた。その作風は、平明で地に足の着いた言葉使いで、辛辣な皮肉を随所にきかせている。ルーマニアの生活の困難さに対しても、大仰なレトリックや辛気臭い説教ではなく、皮肉なおとぎ話で対応する。ばかばかしさを増す政権に対しても常に利口にバランスをとり、指導者や政党に歯の浮くお世辞を並べるのではなく、しかし対立は招かないようにしていた。皮肉をうまく使っていたのだ。対立ではなく皮肉を選んだことにより、彼は自由に、頻りに詩や小説を出版することができたが、戯曲は必ずしもそうではなかった。「ヨナ」とあと一作は、わずかししか上演されなかった。しかし、そのわずかな上演でも評価を得て、同世代を代表する作家とみなされた。作品が訳されたことで、国際的な評価も手に入れた。

翻訳・修辭 ドリアン助川／Durian Sukegawa

1962年生まれ。明治学院大学国際学部教授。作家・歌手。放送作家・海外取材記者を経て、1990年バンド「叫ぶ詩人の会」を結成。ラジオ深夜放送のパーソナリティとしても活躍。同バンド解散後、2000年からニューヨークに3年間滞在し、日米混成バンドでライブを繰り広げる。小説『あん』は河瀬直美監督により映画化され、2015年カンヌ国際映画祭のオープニングフィルムとなる。小説『あん』はフランス、イギリス、ドイツ、イタリアなど24言語に翻訳され、フランスなどで文学賞受賞。2019年、『線量計と奥の細道』が「日本エッセイスト・クラブ賞」を受賞。明川哲也の第二筆名も交え、著書多数。近著は、『寂しさから290円儲ける方法』『動物哲学物語』『太陽を掘り起こせ』など。

演出：シルヴィウ・ブルカレーテ／Silviu Purcarete

1950年生まれ。ルーマニアを代表する舞台演出家。ヨーロッパ三大演劇祭の一つであるルーマニア・シビウ国際演劇祭では、演出を手がける圧巻の大スペクタクル『ファウスト』が毎年のハイライトとして注目を集めている。また、エディンバラやアヴィニョン、メルボルン、モンテリオールなど、世界中の演劇祭に数多く招聘されている。フランス政府から芸術文化勲章シュバリエ、ルーマニア政府から国家勲章を受ける。演劇賞では、エディンバラ・フェスティバル批評家最優秀作品賞、ピーター・ブルック賞、ダブリン演劇祭批評家賞など。東京芸術劇場での日本人出演者とのクリエーションは『リチャード三世』（2017）、『真夏の夜の夢』（2020）「守銭奴」(2022)の3作品がある。

舞台美術・照明・衣裳：ドラゴッシュ・ブハジャール／Dragos Buhagiar

1965年生まれ。92年にニコラエ・グレゴレスク美術学校を卒業後、ブカレストの小劇場界で舞台美術や衣裳のデザインを開始。94年からは国立劇場で作品を手掛け、その後、国際的に活躍している。近年のシルヴィウ・ブルカレーテ演出作品では、オペラ「カルメン」、「戦争と平和」、「珈琲店」、「病は気から」、「ジュリアス・シーザー」、「真夏の夜の夢」、「オイディプス」、「ガリヴァー旅行記」、「この素晴らしい結婚！」、映画「パリのどこかで」など。08年には国際演劇批評家協会による「今年の最優秀舞台美術家賞」を受賞、17年にも「珈琲店」にて、ルーマニア演劇連盟による最優秀舞台美術・衣裳デザイン賞など受賞多数。<https://dragosbuhagiar.ro>

音楽：ヴァシル・シリー／Vasile Sirli

1948年生まれ。ティミショアラとブカレストの音楽学院で学んだ後、ポップ、ロック、現代オーケストラ曲、ジャズ、エスノ、ロマンティック音楽などジャンルを超えて作曲活動を展開。演劇・映画・ダンスなどの音楽を数多く手掛ける。1986年以降はパリを拠点に活動。パリのディズニールランドの音楽ディレクターとして、パフォーマンスの音楽を担当。ルチアン・ピンティリエ作品の音楽などを手がけ、ルーマニア作曲協会賞、GOPO賞、ルーマニア演劇協会賞など国内外の賞を多数受賞。シルヴィウ・ブルカレーテとは欧州で広く一緒に仕事をし、「リチャード三世」、「テンペスト」、「病は気から」、「ジュリアス・シーザー」、「真夏の夜の夢」、「ドン・ジュアン」、「冬物語」、「オレスティア」、「パンダグリユエルの従妹」、「十二夜」、「スカパンの悪だくみ」、「マクベス」、「メタモルフォーゼ」、「ファウスト」、「尺には尺を」、「ルル」、「瀕死の王」など。

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ〜Jonah〜』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田) ・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

＜公演概要＞

公演名 『ヨナ-Jonah』
原作 マリン・ソレスク
翻訳・修辞 ドリアン助川
演出 シルヴィウ・プルカレーテ
美術・照明・衣裳 ドラゴッシュ・ブハジャール
音楽 ヴァシル・シリ
ゼネラル・プロデューサー 鈴木順子 コンスタンティン・キリアック

スタッフ

照明コーディネート 吉嗣敬介 / 音響 小内弘行 / ドラマトウルク カイル山田 / 通訳 加藤リツ子 /
 舞台監督 浦 弘毅 / 国際コーディネート 谷口真由美 / 制作進行 桑澤恵
 宣伝美術 永瀬祐一 / 宣伝写真 TNRS : Alexandru Condurache / 広報 森明希子

出演 佐々木蔵之介

主催 : 東京舞台芸術祭実行委員会[東京都、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)]

助成 : 一般財団法人地域創造
 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(国際芸術交流))
 独立行政法人日本芸術文化振興会

国際移動協賛 : 全日本空輸株式会社  Inspiration of JAPAN

協賛 : アサヒグループジャパン株式会社

後援 : 在日ルーマニア大使館 

協力 : シビウ国際演劇祭

企画制作 : 東京芸術劇場、ルーマニア・ラドゥ・スタンカ国立劇場

劇中歌歌詞 旧約聖書「詩編」より 『聖書 新共同訳』©1987, 1988 共同訳聖書実行委員会 日本聖書協会)

東京公演

会場 東京芸術劇場 シアターウエスト

日程 2025年10月1日(水)～10月13日(月・祝) (◆10月1日はプレビュー公演)

公演スケジュール ※開場は開演の30分前 上演時間 80分 (英語字幕あり)

10月	1水	2木	3金	4土	5日	6月	7火	8水	9木	10金	11土	12日	13月・祝
14:00			●	●	●				●	●			●
16:00											●	▲	
19:00	◆	●					▲	●					

▲10/7、12＝聞こえない・聞こえにくい方のための「ポータブル字幕機提供」を実施いたします。(要予約)

チケット料金 (全席指定・税込)

一般 9,500円 一般 9,000円 (10/1 プレビュー、10/2・10/7・10/8 平日夜限定)

29歳以下 5,000円 高校生以下 1,000円

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ～Jonah～』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係 (内藤、吉田、黒田) ・ 広報営業係 (久保) pr@geigeki.jp 03-5391-2111

チケット取扱

▶東京芸術劇場ボックスオフィス【WEB】<https://www.geigeki.jp/t/>

【電話】0570-010-296（土日祝日を除く 10:00～17:00 9/6（土）より休館日を除く 10:00～19:00）

【窓口】9/6 土より再開

▶チケットぴあ <https://pia.jp/t/geigeki/> セブン-イレブン店舗

▶イープラス <https://eplus.jp/geigeki/> ファミリーマート店舗

▶ローソンチケット <https://l-tike.com/> ローソン、ミニストップ店舗

▶カンフェティ <https://www.confetti-web.com/> 050-3092-0051（平日 10:00～17:00）

※未就学児入場不可

※29歳以下、高校生以下のチケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い（枚数限定・公演当日要証明書）

※障害者手帳・ミライIDをお持ちの方は、割引料金でご鑑賞いただけます。詳細はボックスオフィス、または劇場WEBサイト（鑑賞サポート）にてご確認ください。（要事前申込）

※車いすでご鑑賞をご希望のお客様は、ご案内できるスペースに限りがあるため、ご購入時にボックスオフィス（0570-010-1296）へお問い合わせください。

※全日程でヒアリングループ（磁気ループ）が客席の一部で作動します。

※やむを得ぬ事情により、記載内容・公演情報等に変更が生じる場合がございます。

※営利目的の転売は固くお断りいたします。

※公演中止の場合を除き、ご予約・ご購入されたチケットのキャンセル・変更は承れません。

※ご来場前に必ず劇場WEBサイト内の最新情報をご確認ください。

◎託児サービス

生後3カ月～小学校入学前までのお客様対象 有料、定員制

要事前予約（公演日の一週間前まで） 株式会社明日香 0120-165-115（平日9:00～17:00）

【チケット発売日】

一般発売 2025 年 7 月 18 日（金） 他プレイガイド等の先行販売あり

【お問合せ】

東京芸術劇場ボックスオフィス

電話 0570-010-296（土日祝日を除く 9:00-17:00 9/6（土）より休館日を除く 10:00-19:00）

WEB <http://www.geigeki.jp/>

【公演詳細】

<https://www.geigeki.jp/performance/theater377/>

<国内ツアー公演>

金沢公演 2025年10月18日（土） 北國新聞赤羽ホール

松本公演 2025年10月25日（土）、26日（日） まつもと市民芸術館 小ホール

水戸公演 2025年11月1日（土）、2日（日） 水戸芸術館 A C M 劇場

山口公演 2025年11月8日（土）、9日（日） 山口情報芸術センタースタジオA

大阪公演 2025年11月22日（土）～24日（月・休） COOL JAPAN PARK OSAKA TTホール

<<<本件に関するお問い合わせ>>>

『ヨナ～Jonah～』広報(宣伝委嘱) 森明希子 akiko1021@jcom.home.ne.jp

制作 東京芸術劇場 事業企画課 2 係（内藤、吉田、黒田）・広報営業係（久保） pr@geigeki.jp 03-5391-2111